



JA YOUTH



『情熱』～それは熱き青年の心

2025.4

No.

62

発行者

いわみざわ農協青年部



いわみざわ農協青年部

部長 清水 研介

私たち青年部は、1月20日に第31回通常総会を開催し、新体制になりました。

昨年を振り返りますと、融雪は平年並みに進み、春先は低温・干ばつ傾向ではありましたが、その後は天候にも恵まれ、各作物ともに順調な生育となりました。

水稻については、南空知作況指数が103となり、登熟期間の気

温も高かったことにより例年に比べ早い収穫期を迎えました。病害虫被害や気象状況による影響も少なく、品質・収量ともに良好な年となりました。

一方で、国際情勢の変化や生産資材の高騰など様々な問題がある中で、我々農業者が日々の営農、生活をしていくためにも今後の動向を注視するとともに、いかなる情勢でも対応できる経営を行ってい

くことが重要になっていきます。

昨年の青年部の活動に目を向けますと、営農セミナー、部員親睦会、情熱直送便、そしてAMSと主要なものを含めてすべての事業を計画通りに開催することができました。更に昨年は3月に青年部創立30周年を迎える式典が行われ特別な1年となりました。今後歴史を作ってきた先輩方の意思を受け継ぎ、充実した事業を行うことはもちろん、JA運動の先駆者として地域社会に貢献できるような層努力して参ります。

また昨秋にはJAいわみざわの新本所が完成しました。新しくなっ

た本所とともに、JAと我々青年部が協力し合い、各事業を盛り上げていきたいと考えております。

現状、私たち農業者を取り巻く情勢は、一層厳しさを増し、課題が山積みですが、私たちは青年部がすべきことは、盟友との相互理解を図り、仲間を作り、情報共有を行い、予測不能な農業情勢に負けない力を蓄えることであると考えています。

最後に、盟友並びにJAをはじめ、各関係機関、行政、地域の皆さまには青年部に今年度も変わらぬご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます、就任の挨拶とさせていただきます。

「情熱」の発刊に寄せて

青年部機関誌『情熱』の発刊にあたり、ご挨拶申し上げます。

日頃より青年部盟友の皆さんにはJ A事業に対しましてご理解とご協力をいただいていることに心よりお礼申し上げます。また、令和7年度清水部長新体制のもと、積極的な活動を展開されることに期待を寄せているところであります。

私は常々、農業の未来は若い世代の手にかかっていると考えています。農業は地域の発展に



いわみざわ農業協同組合

代表理事組合長

引 頭 一 宏

とつて欠かせない基盤であり、地域振興にとつても重要な役割を果たしています。農業が活性化すれば、それに伴って地域の経済も活性化します。青年部の皆さんには、若い力で農業を通じて地域社会を元気にし、地域全体の発展に貢献するという大きな役割があることをしっかりと認識していただきたいと思います。そのためには、技術を学ぶのも勿論ですが、柔軟な発想と新しい視点を持ち続けること。そして切磋琢磨し助け合えるような仲間づくりが必要であると考えております。

私たちの社会は急速に変化しています。未だに続くロシア・ウクライナをはじめとする海外の紛争。物価高騰や気候変動といった課題に直面する中で、農業の果たす役割

はますます重要性を増しています。昨年秋季には「令和の米騒動」と言われるほどのコメが品薄状態の時期があり、コメの価格高騰も含め政府の対応の遅れが指摘された一方、今後食料の安定供給の確保に万全を期していくことが改めて求められる形となりました。

特に北海道をはじめとする地方の農業は、深刻な高齢化と担い手不足に悩まされる一方で、「スマート農業」の推進をはじめとする技術革新や、地域資源を活かした新たな農業の形を模索しているところでもあります。これらの農業には、今までにないような革新と挑戦が求められることとでしょう。その一方で、今一度農業の基礎をしっかりと学び、皆さんそれぞれが揺るぎない経営基盤を作っていくことが、次世代へと繋がる重要な要素であることも忘れてはなりません。

さて、青年部活動においては、昨年に青年部創立30周年記念式典が華々しく開催されたことが記憶に新しく、「情熱直送便」

ではメインイベントである米俵リレーのほか、直売会やSTVラジオを通じたプレゼント企画など地元地域とともに活発な事業活動を展開できたのではないかと思います。また、AMSでは農業や農業機械といった、農作業に欠かせないテーマで視察研修を行うことができたことは非常に明るい話題であります。

昨年秋季には新本所が完成しました。本所機能の集約を行い、部署間の連携をさらに深めることで機能強化を図りながら組合員の負託に応えられるよう役職員が一体となつてより一層努力してまいりますので、青年部盟友の皆さんも活発な事業活動を展開し、活力ある地域農業を目指してともに取り組んでいきましょう。

結びに、本年が天候に恵まれ豊穡の秋を迎えられますとともに、青年部活動が実り多きものになりますこと、青年部盟友の皆さんの益々のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます、挨拶といたします。

岩見沢支部 松林 亮太



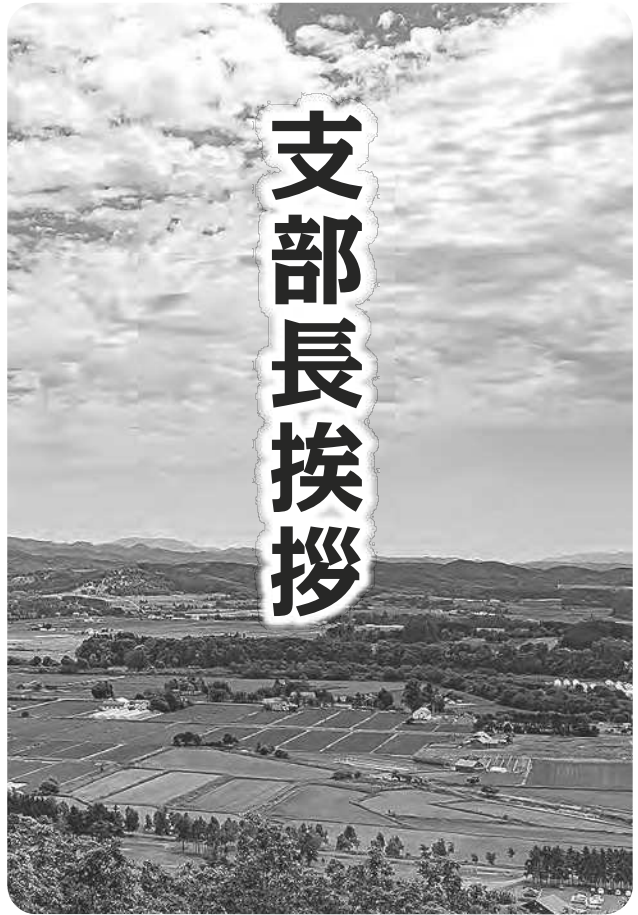
今年度、岩見沢支部長になりました松林亮太です。

岩見沢支部は稔班、西川班、志文連合、三笠班の4班で構成されており、今年度は新入部員4名を含め総勢41名で活動していきます。

支部活動として、3月に部員親睦会のボウリング、6月には支部視察研修を行う予定です。少しでも皆さまが楽しめるよう活動していきたいと思っています。

本部事業につきましても全体の盟友数が減ってきているので、積極的に本部活動に取り組み盟友の意見や要望を取り入れながら、他支部と協力し盛り上げていきたいと思っています。1年間頑張っていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

支部長挨拶



栗沢支部 長谷川 将也



今年度、栗沢支部の支部長を務めます長谷川将也です。栗沢支部は新たに1名の新入部員を迎え、現在33名で活動しています。

今年度の支部事業としては、部員親睦会・視察研修・農業PR活動さらにはJA職員や地区理事の方々との交流会を計画しております。共催事業でもあります「くりさわ農業祭」にも参加し、焼き鳥やビールの販売、地元野菜の詰め放題などのイベントを通じて、地域の皆さまとの交流を図ります。

本部事業につきましても、栗沢支部盟友と積極的に参加し、他支部との交流を深めることで青年部活動を盛り上げ、仲間づくりの楽しさや大切さを伝えていきたいと思っています。皆さまのご協力をいただきながら、全力で活動に取り組んでまいりますので、今年1年間よろしくお願いします。

北村支部 横山 紘貴



今年度、北村支部の支部長となりました横山紘貴です。

現在の北村支部は、令和3年に北村支部と大富支部の統合、昨年の令和6年には幌向支部と合併をしました。それによって支部の規模は大きくなり、今年度は新入部員3名を迎え、盟友50名、北村班、大富班、幌向班の3班体制で活動を行っています。

支部の事業としては、新入部員歓迎会や支部研修などを計画しています。また、北村小学校の食育活動への参加や未加入青年の加入促進、各班の活動など、地域への関わりにおいても取り組みを行っています。

今年度は3班体制での活動が2年目となりますので、支部事業などを通して昨年度より一層、各班各盟友の親交を深めていける年になるのではないかと思います。

盟友の皆さまと共に青年部の結束を高めていけるよう支部長という役割に励み、楽しみながら青年部活動を行っていききたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。

令和7年 新入部員紹介



岩見沢支部

篠永 一誠 (29)

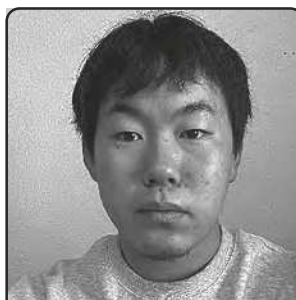
JAびばいで10年ほど勤めておりましたが、縁があり農業に従事することとなりました。実際に畑で土を触り、作物を育てることは初めてで、わからないことばかりですが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



岩見沢支部

今 慶太 (27)

農業はもちろん色々なジャンルで少しずつ日本を盛り上げられたらと思います。よろしくお願いします。



岩見沢支部

村上 翔 (19)

青年部活動を通じて沢山の方と交流していくとともに、農業についていろいろなことを学んでいきたいと思っています。よろしくお願いします。



岩見沢支部

水上 壘滋 (27)

主品目は玉ねぎで、その他には麦、大豆を栽培しています。

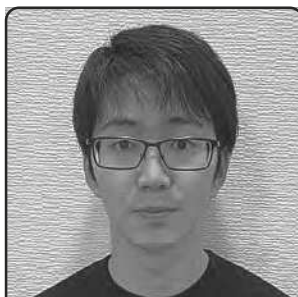
最先端の農業経営を学習し、実践できたらなと思っています。これからよろしくお願いします。



北村支部

平野 英 (29)

青年部の活動の中でたくさんの方の繋がりを作り、農業を通じて地域貢献していきたいです。不慣れなこともありませんがよろしくお願いします。



北村支部

外崎 涼介 (25)

沢山の方と交流して繋がりを広げていけるように、積極的に活動に参加していきたいと思っています。よろしくお願いします。



北村支部

川崎 健斗 (23)

農業者として食分野のライフラインを支える自覚を持って従事して参ります。よろしくお願いします。



栗沢支部

宇井 祥梧 (20)

青年部を通して様々な人達と交流し、今までの経験や知識を活かしていきたいです。イベントなども積極的に参加していきたいと思っています。よろしくお願いします。

各種QRコード

ホームページ



ポリシーブック



フェイスブック



インスタグラム





いわみざわ農協青年部

私たちの活動を紹介します！

若き農業者同士…新しい「仲間」をつくりませんか？

- ・ 沢山の盟友（部員）で活動しています！
- ・ 共に農業の苦楽を分かち合える同志がいます！
- ・ 農業の未来を共に担い、切り拓いていきましょう！

営農セミナー



盟友の要望に沿った内容で開催！
昨年度のテーマは「経営分析」

部員親睦会



昨年はミニバレーボール大会を開催
懇親会は焼肉を楽しみました

道外研修



年に一度、各支部から選抜して
道外の企業等に視察に行きます
昨年度は関西方面へ

情熱直送便



岩見沢～札幌間を米俵を背負って走るリレーを通じ
地元農産物や食育活動をPR！

AMS2024



Agriculture Mate Seminar
視察先「ホクサン株式会社」「エム・エス・ケー農機株式会社」

Facebook/
インスタやってます
Follow us!



令和6年度

情熱直送便は、私たち農業者の情熱の結晶ともいえる農畜産物を詰めた米俵を盟友が背負い、バトン代わりに繋ぎながら岩見沢から札幌のSTVラジオまで走り届ける「米俵リレー」が目玉です。他にも私たち生産者の活動をPRする様々な企画を行いましたので、本稿ではそれらの活動と情熱直送便当日を振り返ります。

今年度の情熱直送便は、令和4年度から復活した「米俵リレー」をメインに行うことを軸に計画し、実行委員会を立ち上げて盟友に協力していただきながら準備を進めました。「米俵リレー」と並行して宮農資材センター前とホクレンく



に放送していただきまし
た。そちらも好評で、全道のラジオリスナーへ良い宣伝となったため、より多くの方に情熱直送便を知ってもらうきっかけとなりました。

ラジオ以外でも周知活動
を積極的に行い、情熱直送便周知のポスターを作成し、JAいわみざわの各支所や施設、岩見沢市内の各所に掲示しました。また情熱フェスティバルでも来場者に米ドンの実演・無料配布を行いながら情熱直送便のチラシを配布するなど、PR活動を行いました。

ラジオパーソナリティーの太田黒さんや水稲部会の町田会長、空知青年連合会の竹内事務局に走っていただきました。

31名の盟友と3人のゲストランナーで札幌まで米俵を繋ぎ、最終走者の前田部長がSTVラジオにゴールしました。到着後、前田部長が「きげんようじ」に生出演し情熱直送便・農業にかける想いを全道のリスナーに向けて発信しました。

情熱直送便



令和6年度の青年部活動は、充実したイベントを行うため、事業の計画を進めてきました。その中でも事業部会が担う情熱直送便は盟友全員で取り組むいわみざわ農協青年部の一大イベントです。

るの杜での直売会を行いました。さらに過去好評だった年間を通してSTVラジオでのリスナープレゼントを計画しました。8月9日には「玉ねぎ」「白菜」「カボチャ」の内容で、農畜産物のプレゼントを行い多数の応募がありました。10月には4週にわたり、新米の情熱米をプレゼントしました。どちらも大変好評で応募はがきにコメントが添えられたりお礼の連絡やお手紙が来たりと、私達青年部を激励していただく内容で大変嬉しく思いました。

また今年はSTVラジオにて直送便PRを兼ねた、音声メッセージをランナーの方に協力して録音してもらい、ジングルとしてCM中



實の皆さまが開会式へ応援に駆けつけてくださいました。出発前に行われた入米式では米俵に米と牛乳を詰め第二走者がスタートしました。

また宮農資材センター前とくるるの杜で行われた直売会は、悪天候で客足がまばらでしたが、新米や野菜、加工品を販売し盛況のうちに終了することが出来ました。宮農資材センター前では、キッチンカーに出店していただいたことや、こども食堂を同日開催したこと、岩見沢農業高等学校の生徒にも協力を仰ぎお手伝いをお願いし、縁日やミニトラクターの試乗に缶バッジ作成などで賑わいました。これらを通じて子供達に農業やいわみざわ農協の農畜産物を知っていただく貴重な機会となりました。くるるの杜では、トラクターの展示試乗体験や切り花キタノカオリ



今年度のAMS2024品として作られるかなど直接見ることが出来ずに、1泊2日の宿泊研修の形で行いました。ただ今年度は、一部例年と異なった形として日帰りでも研修を受けられる形も取り入れました。初めての試みでしたが、札幌近郊ということもあり多くの盟友に参加していただけでした。

視察先は、北広島市のホクサン株式会社と恵庭市のエム・エス・ケー農業機械株式会社の2カ所で行わせていただきました。また、施設内見学では、農業の基本について再確認することができ、日頃使っている農機がどのような過程を経て製造されているか

エム・エス・ケー農業機械株式会社では、コンバインの性能や特徴、実際の使用されている方のお話を聞くことが出来ました。



することのない製造現場やお話を聞き、たいへん実のある視察研修になったと思います。

し、参加者全員にプレゼントしました。

本部事業の締めくくりに参加したAMSに参加していた盟友の皆さん、事務局やJAの関係各所の皆様そして視察を受け入れてくれた企業

の皆さんにとっても普段見す。宴会の途中にイベント。視察終了後には札幌の皆様のご協力により成功で終わることが出来ました。改めてお礼と感謝を申し上げます。来年度も盟友の皆さんに参加して頂き、楽しい活動や交流が出来ることを祈念してAMS2024の報告とさせていただきます。

道外農業視察研修

今年度の道外視察研修は11月19日から22日の3泊4日の日程で、関西方面にて研修を行いました。



初日は大阪府堺市にあるクボタグローバル技術研究所へお伺いしました。クボタグローバル技術研究所は、グローバル研究開発体制の連携推進および製品開発や先端技術開発の強化を目的として2022年に設立されました。約34・6万㎡の敷地内にテストコースや実験場をはじめ、24時間連続自動運転可能な試験装置を新設・増設して研究開発を効率化させる国内最大の開発拠点で、農業機械、建設機械、エンジン、水環境技術など多岐にわたる分野の先進技術を追求し

ています。

これらの研究を通じて、地球規模の課題解決を目指し持続可能な社会の実現に向けて新たな製品やサービスの開発に取り組んでいるとのことでした。また、グローバルに展開するクボタの

技術力を強化し、地域ごとのニーズに応じた最適なソリューションを提供することを目標としています。国内外の大学や研究機関、企業と連携し、AI技術やIoT（Internet of Things）などの先端技術を活用したイノベーションを推進している点が特徴です。

視察では研究所内の設備や敷地内を見学させていただきました。クボタは10年間の長期ビジョンとしてGMB2030というものを策定しているそうです。GMBとはグローバルメジャーブランドの頭文字をとっています。2030年にクボタが目指す姿は、豊かな社会と自然の循環にコミットする、命を支えるプラットフォームになっていきます。クボタグローバルと呼べ、食料、水、環境、これらのビジネス領域を通じて、製品供給、それだけではなくお客様の真の

課題を解決して新しい価値を創造していくソリューションを提供するよう、そして世界中から必要とされるグローバルメジャーブランドになることを目指しているそうです。

2日目の視察研修先はKTCのものづくり技術館に伺いました。KTCの正式名称は京都機械工具株式会社で1943年に創業した日本の大手工具メーカーです。主に精密な工具を製造・販売している会社でスパナやレンチ、ドライバー、ラチェットなどのメカニカルツールを中心に多種多様な工具を提供しており、その品質の高さと耐久性で広く認知されています。特に自動車や製造業、建設業などのプロフェッショナルから高い信頼を得ており、精密な製造工程と厳格な品質管理を通じて常に高性能で信頼性のある製品を市場に提供されています。また、技術革新にも力を入れてユーザーのニーズに応じた新しいツールやサービスを開発。国内外の販売網を持ちグローバルに展開しているKTCは、手工具の分野におけるリーディングカンパニーとして、品質第一主義を貫いている会社

です。とても魅力的な会社でした。3日目の研修は神戸酒心館に伺いました。神戸酒心館は兵庫県神戸市東灘（ひがしなだ）区に位置する歴史ある酒蔵で、1751年に創業した「福寿」のブランドで知られています。兵庫県は日本酒の名産地として名高く、特に東灘区は「灘の生三本」などのきいっぽんの産地として全国的に有名です。酒心館は、この伝統を守りつつも、現代の技術を取り入れて質の高い酒造りを続けています。

酒心館では、酒造りに適した「宮水」と厳選された米を使用し、伝統的な手法と最新技術を融合させた酒造りを行っており、主力商品である「福寿」は、特に純米大吟醸が国際的なワインコンテストでも高く評価され、ノーベル賞公式行事で提供されたことでも注目を集めました。

最終日は他地域の青年部員と交流を図るということでJA兵庫南にお伺いし、青壮年部の方々と交流させていただきました。JA兵庫南の青壮年部は20代〜50代と幅広い年齢層の部員が在籍しており、生産している品

目は野菜や果樹、花苗などさまざまです。地域の農業を元気にしようと、地元小学校の水稲学童農園の指導を行ったり、地域活性化を図るイベントに参加したりと、情熱と協同力で地域農業の振興を図っています。青壮年部との交流と並行してJA兵庫南の宮農経済センターに隣接するカントリーエレベーター（乾燥施設）や農機センターを見学させていただきました。青壮年部との座談会では兵庫と北海道の、経営面積をはじめとする営農体系の大きな違いに感じ、話に花を咲かせました。



今回、道外視察研修の機会を与えていただいた関係各位、また盟友の皆さまに感謝を申し上げます。この研修で得たことを今後の営農に役立てたいと思います。ありがとうございました。

令和7年度 空知管内JA青年部 道外農業視察研修

2月26日から3日間空知管内JA青年部道外農業視察研修に参加しました。

初日はホクレン東京支店米穀課と意見交換会を行いました。始めに米を巡る消費地情勢やコメの消費動向、販売状況について説明がありました。

た。コロナ禍が明けたことによる中・外食産業の回復や、色々な要因が重なり「令和の米騒動」と言われるほど米価が高騰したため、ホクレンとしても農家や消費者がお互いに納得のいく価格にしていきたい

ということでした。その後も意見交換を行いインバウンドでの消費は国内消費に含まない等、知らない事が聞けてとても貴重な時間となりました。

次に、参議院議員会館へ行き小松主幹による農政とJAグループによる講義と意見交換会を行いました。東京事務所業務の役割や農業政策の動向、農業基本法等を学び、法律の策定にはとても多くの議員の方や団体による検討や審議が行われた後施行される事を知り、とても勉強になりました。

その後、水田政策などについて意見交換を行いとても有意義な時間となりました。

2日目は、農研機構農機研究部門へ視察に向かいました。自動運転による田植機や畜産の国産飼料の効率生産の為にトウモロコシ播種機、乳牛モニタリングシステム等の研究開発を行なっているのことでした。農業が抱える人材不足や資材価格高騰といった諸問

題を解決する素晴らしい研究だと思いました。その他にも機械展示、博物館ブースの見学を行いました。



午後からは大宮ソニックスティホールにてJA全国青年大会に参加しました。酒井雅博全青協会長より開会の挨拶があり、JA青年の主張が6名、活動実績発表が6単組の発表が行われました。JA青年の主張では最優秀賞にJA青あきた北青年部の谷本弾さんが選ばれました。秋田県が抱える農業の問題を先輩農家と共に試行錯誤しながら、地域



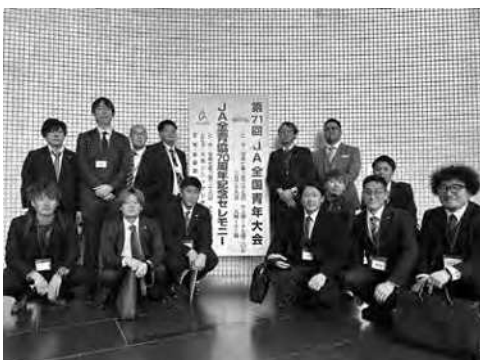
のイベントを盛り上げて秋田県を活性化して行こうという熱い熱意が伝わり、とても感銘を受けました。

活動実績発表では最優秀賞

にJA横浜青壮年部都田支部が選ばれました。農福連携の人材に障がい者の方が農作業を行うという内容でした。お互いに納得できる委託料を算出する「農福のトリセツ」を作成し、ただ作業をさせるのではなくフェアトレードを心掛ける姿はとても素晴らしい、仕事をする人の体・心をとて

また、同日の夜には岩手青年部との交流会を行いました。岩手県の農業事情や、青年部活動について活発に意見交換を行いとても楽しい懇親会になりました。

今回の研修にて日本の最新の農業情勢を学ばせていただいたことや、他の単組の青年部と交流を行ったことで大変良い刺激になりました。このような機会を与えて頂いたJAいわみざわ並びに関係各所の皆さまに感謝を申し上げます。



土づくりから始めよう ～有機物補給のすすめ～

良質な農産物を安定的に生産するためには、健全な「土づくり」が基本です。
「土づくり」のため、堆肥、緑肥などの有機物を施用することは、土壌の化学性、物理性、生物性の改善といった多様な効果があります。

有機物の土壌改良効果

化学性の改善	物理性の改善	生物性の改善
○養肥分としての効果 多量要素・微量元素の供給 緩効的・持続的・累積的肥効 ○陽イオン交換容量の増大 肥料成分の流亡抑制 ○緩衝能・キレート作用の増大 酸性障害軽減 リン酸の固定防止・有効化	○土壌の団粒化 砕土性・透水性・保水性の改善 土壌浸食の防止	○生物的緩衝能の増強 有害生物の突発的増加防止 ○物質循環能の増大 窒素・リン酸の有効化

堆肥による 物理性改善

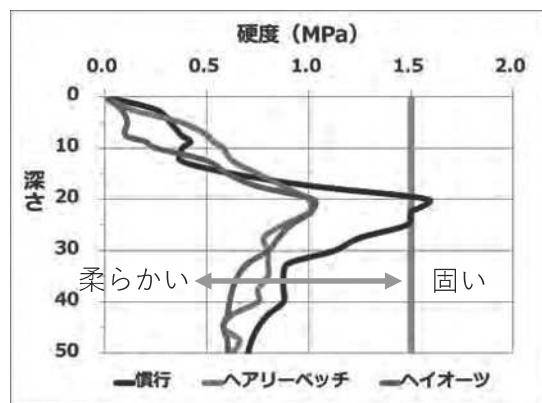
団粒化が促進され、砕土性が向上、こなれやすい土に



堆肥施用区 無施用区
堆肥施用試験ほ場の
作土を乾燥

緑肥による 物理性改善

すき込みで団粒化が促進、根が土壌中に伸長して透水性・通気性を改善



2022 岩見沢市4Hクラブ緑肥プロジェクト

堆肥・緑肥を投入する前には、C/N比を確認しましょう

C/N比は、有機物に含まれる炭素(C)と窒素(N)の比率です。

C/N比が低い有機物は窒素供給効果が高く、C/N比が高いと(例えば 稲わら、麦稈)、土壌物理性改善効果が期待できます。

ただし、C/N比が大きい(Nが少ない)有機物では、分解時に、窒素飢餓を引き起こす恐れがあるため、施用する際に窒素を添加する必要があります。

令和7年度
執行部



監事 中西 勇人	理事 辻 貴将	理事 横山 紘貴	理事 松林 亮太	事務局 米森 大祐	(後列)
代表監事 武田 貞広	副部長 (事業部会長) 保科 和将	部長 清水 研介	副部長 (会計) 宮嶋 遼	副部長 (組織部会長) 高柳 京祐	(前列)

事務局
紹介



令和6年度 組織部会報告

部会長 武田 貞広
理事 高柳 京祐
理事 関根 智明

今年度の組織部会は「青年部員としての意識の高揚を図るとともに、盟友同士の親睦を深める」ということを目標に1年間活動してきました。

3月の宮農セミナーでは、空知農業改良普及センターの方を講師に招き「JA管内の経営分析と分析方法について」をテーマにお話しいただきました。いへん有意義なセミナーになりました。

6月には部員親睦会を行いました。ミニバレーボール大会と親睦会の焼肉を行い、盟友JA役職員の皆様合わせて100名近くの参加があり、交流親睦を深めることが出来たと思います。

11月は道外研修とAMS2024を実施しました。道外研修では、近畿・関西方面においてクボタ本社やKTCものづくり技術館、神戸酒心館などで研修を行い、JA兵庫南経済本店の青壮年部との交流会も行いました。視察や宴会も含めて参加者全員有意義なものになったかと思っています。

AMS2024は、日帰りの形も取り入れた1泊2日の宿泊の形を札幌近郊で行いました。視察先はホクサン株式会社とエムエス・ケー農業機械株式会社で、製造工場を見学したりお話を聞いたり爽やかな研修となりました。夜には札幌東急REEホテルで宴会を開催し、イベントにビンゴゲームも行い参加者全員楽しんでいただけたと思います。

今年度は、特に大きな問題も無く計画通りに活動することが出来ました。来年度もより良い活動が出来るよう努力してまいります。

最後に、今年度の事業を行ってきた本部役員・事務局の皆さま、そして参加していただいた盟友の皆さま、ご協力いただいた各関係機関の皆さまに多大なる感謝を申し上げ今年度の組織部会の活動報告とさせていただきます。

令和6年度 事業部会報告

部会長 清水 研介
理事 保科 和将
理事 宮嶋 遼

今年度の事業部会は、機関誌『情熱』の発行や青年部ホームページ・フェイスブック・インスタグラムの管理編集、情熱直送便を実施しました。

機関誌『情熱』に関しては61号を2024年4月に発行しました。各支部の編集委員の協力をいただき、今年度の青年部活動や営農に関する情報を盟友の皆さまにお届け出来たと思います。

ホームページ編集やSNS管理につきましては、青年部活動が活発に行えたことで発信する機会が増え広報活動が賑やかなものになり、消費者の方々に知っていただくことができたと思います。

情熱直送便については、実行委員会を立ち上げ、令和4年度から復活した「米俵リレー」をメインとして、営農資材センター前とホクレンくるもの社での直売会を開催することを目指し準備してきました。情熱直送便当日は生憎の天気でしたが、米俵リレーは予定通りSTVラジオまで米俵を繋ぎ沿道の方々やラジオを聞いている方に広く私たち青年部の活動をPRすることができました。2会場での直売会は、新米のPB米、野菜や加工品を販売し盛況でした。またトラクターの試乗体験や子ども縁日などの催しも一緒に行つたため、お客様にはたいへん好評でした。

最後になりますが、盟友や事務局・各関係機関の皆さまのご協力を得て無事活動を終えることが出来ました。この場をお借りしてお礼申し上げます。事業部会の活動報告とさせていただきます。

SNOW MESSAGE 2025



実施場所:株式会社 北豊商建 様

令和7年 退部者

栗沢支部

川幡 拓也
津田 拓也
武田 慎吾

北村支部

森山 文雄
白木 修平
中田 圭祐
渋谷 功

岩見沢支部

安藤 詠二
池上 拓磨
小川 昌彦
中山 翼
村上 泰弘
矢尾 卓也
景安 真也
川島 健嗣
林 周作
平井 康之



編集委員

事業部会長 保科 和将
理事 松林 亮太
理事 横山 紘貴
岩見沢支部 背戸田 祐貴
北村支部 島田 聖史
栗沢支部 影山 新羅